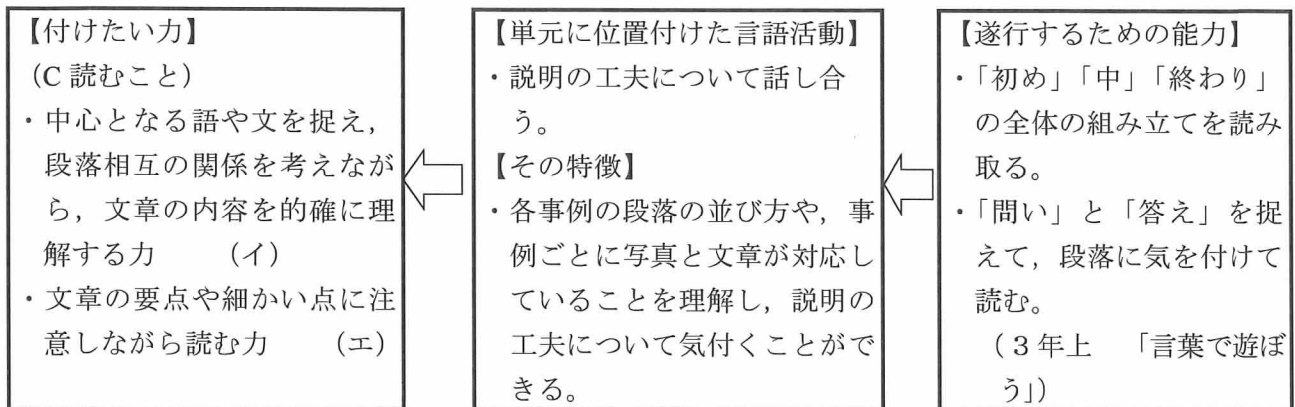


第3学年 国語科学習指導案

日時 平成29年9月28日(木) 5校時
児童 3年1組 男17名 女13名 計30名
指導者 小田島 文子

- 1 単元名 せつめいのくふうについて話し合おう
教材名 「すがたをかえる大豆」 (光村図書 3年下)

2 単元に位置付けた言語活動



3 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、説明的文章の構成を「初め」「中」「終わり」で捉える見方は繰り返し学んできている。「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」では、「問い」と「答え」を捉えて、まとまり(段落)に気を付けて読むことや、交流して考え方の違いを知る学習をしている。また、2年生の「しかけカードの作り方」で、絵や写真を提示することや、「まず」「次に」などの言葉を使うなどの工夫を学んでいる。国語の学習に意欲的に取り組む児童が多いが、まとまりに気を付けて読んだり、自分で内容を読み取ったりする活動に苦手意識を持っている児童もいる。そこで、本単元では、繰り返し使われている言葉(キーワード)や中心文に着目させ、段落相互の関係を考えながら文章の内容を的確に把握することで学習を深めたい。

交流活動については、国語の学習だけでなく、算数の学習で計算の仕方を説明したり、社会の学習で地域の様子を話し合ったり、となりの友達に自分の考えを話すことが出来るようになってきた。自分の考えを確認する場だけでなく、考えを広める場、深める場となるよう単位時間の中に位置付けていきたい。

(2) 教材について

小学校指導要領における第3, 4学年「C 読むこと」領域の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」である。また、本単元の指導事項は「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」「エ 目的や

必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」である。

本教材は、大豆をおいしく食べるための工夫を5つの例で説明している典型的な解説型の文章である。「中」の段落は、並列の関係にあり、各段落の最初の文が段落の中心文である。そのうえ、事例が提示される順番にも工夫があるので、説明の仕方の工夫を学び、中心となる語や文を大切にしながら文章の内容を理解する力を付けることができると考える。

また、自分の食生活や日本の食文化を見つめ直すことにもつながり、食育という観点からも貴重な教材である。

(3) 指導にあたって

【研究内容1 言語活動を充実させる単元構想】

本単元では、「説明の工夫を見付けよう」ということを単元のゴールとして設定する。今までに学習してきた「説明の工夫」を確認し、さらに工夫を見付けていこうと意欲付けをする。

本単元で学習したい「説明の工夫」とは、各事例の段落の並び方、写真と文章の対応、段落の書き方と捉える。

【研究内容2 思いをもって伝え合う言語活動】

第一次では、「説明の工夫を話し合う」というゴールを確認する。そして、大豆を使った食品を見たり、文章の大まかな内容を捉えたりしながら、これからの学習への意欲を高めていきたい。

第二次では、まず、「初め」「中」「終わり」の全体の組み立てを読み取る。「初め」には、「問い」の文がないので、みんなで「問い」の文を考えることで、筆者が説明して伝えたいことを確認する。「中」の段落は並列の関係にあり、各段落の最初の文が説明の中心文であることを捉える。

中心文に着目させることで段落相互の関係を捉えさせる。また、「いちばん分かりやすいのは」「さらに」などの言葉を細かく読み取ることで、事例が提示される順番についても考えさせたい。そして、「終わり」を読み、説明の工夫についてまとめる。

第三次では、他の食べ物を扱った本を読み合い、説明の工夫についてグループで話し合いながらまとめさせる。そして、次単元「食べ物のひみつ教えます」に生かしていくことを確認する。

【研究内容3 高まりを自覚させる振り返り】

単元の学習を通して身に付けた力や学びの高まりを自覚させるために、単位時間ごとの振り返りを積み重ねる。単元の終わりには指導目標に関連する項目で学習を振り返り、次の学習への意欲につなげていく。

4 単元の指導目標及び評価規準

(1) 単元の指導目標

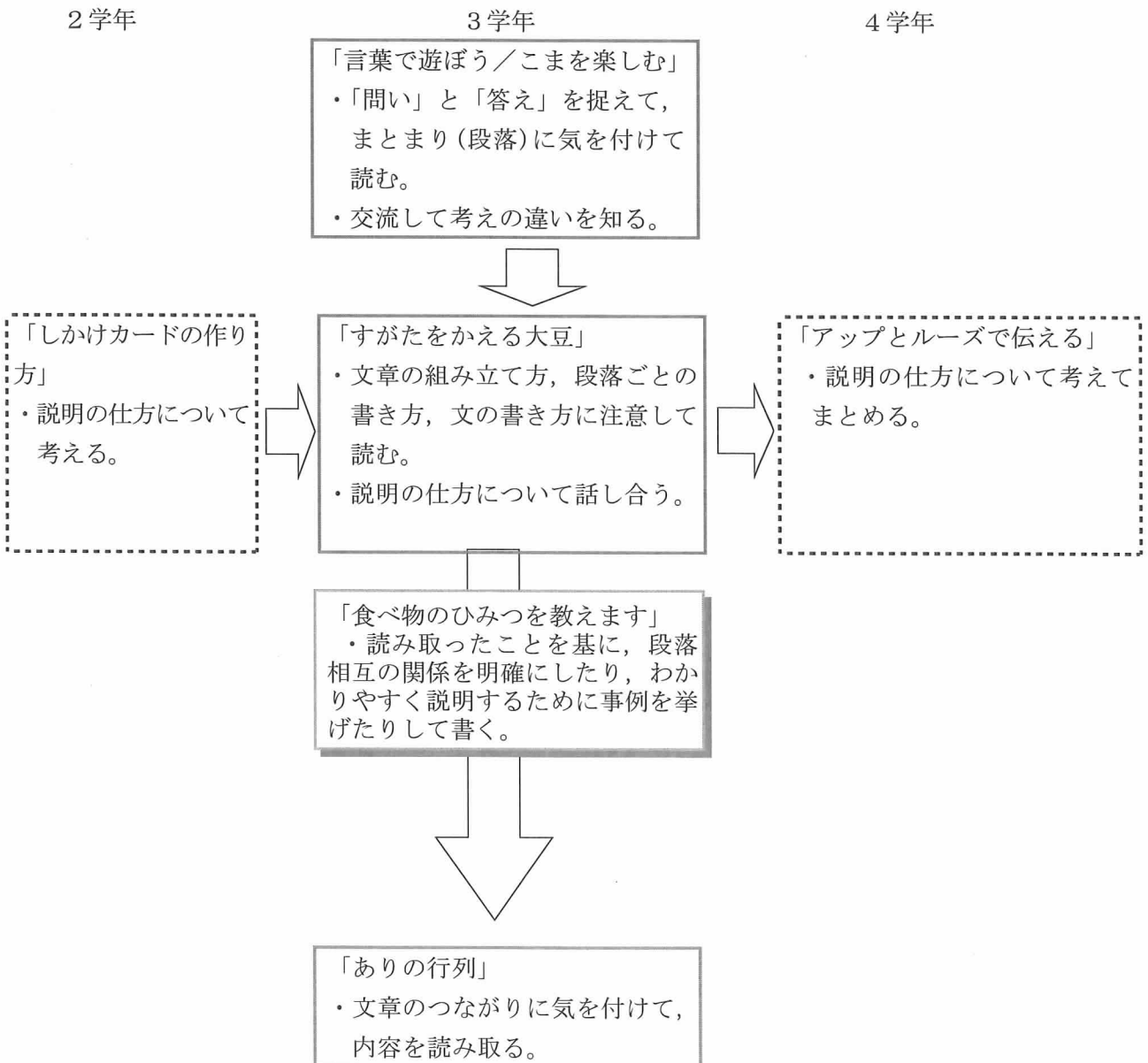
- 文章の内容に関心をもち、文章構成を理解しながら読もうとしている。(関心・意欲・態度)
 - ◎中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。(読むこと)
 - 内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読むことができる。(読むことイ)
- ・文中の語句について、国語辞典を利用して調べることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ))

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容に関心を持ち、文章構成を理解しながら読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心になる文を確かめながら、説明されていることを整理している。 構成や具体例に注意し、整理しながら適切に内容をまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の表現や言葉に注目し、国語辞典を使って調べている。

5 単元の系統性



6 単元の指導計画及び評価計画（7時間扱い）

段階	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一次 2時間	①食べ物を扱った本を比べながら、学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物を扱った本を紹介し、説明の工夫を見付けるというゴールを示す。 単元計画を設定しながら、並行読書のきっかけづくりをする。 	<p>【関】食べ物を扱った本に興味をもち、学習の見通しをもっている。 (発言・ノート)</p>
	②大豆を使った食品について考え、「すがたをかえる大豆」を通読して大まかな内容を捉える。 ・大豆を加工する時の言葉について、国語辞典で調べる。	<ul style="list-style-type: none"> 大豆を使った食品の実物や写真を見せて、大豆についてイメージを持たせる。 大豆を加工する時の言葉について国語辞典で調べる。 	<p>【読】文章を通読して、おおまかな内容を捉えている。(発言・ノート)</p> <p>【言】文章中の表現や言葉に注目し、国語辞典を使って調べている。 (ノート)</p>
二次 3時間	③教材文の構成を確かめ、「問いの文」について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を「初め」「中」「終わり」に分ける。 「問いの文」がないことを確認し、みんなで考える。 	<p>【読】「初め」「中」「終わり」の全体の構成を捉えている。 (発言・ノート)</p> <p>【読】「問いの文」を考えている。</p>
	④中心となる語や文に着目しながら、「中」を詳しく読み取る。 (本時) ⑤「すがたをかえる大豆」の説明の工夫をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 中心文を見付け、各段落の工夫をまとめる。 事例を挙げる順番も文章の工夫であることを捉えさせる。 文章に対応した写真を使うとわかりやすいことを確認する。 	<p>【読】段落の中心となる文を捉えている。 (発言・ノート)</p> <p>【読】説明の仕方の工夫について事例を挙げる順番や写真の役割について考えながら読んでいる。 (発言)</p>
三次 2時間	⑥⑦ 他の食べ物を扱った本の内容や説明の工夫について、感想を話す。	<ul style="list-style-type: none"> 「すがたをかえる大豆」で行われていた説明の工夫を参考にさせる。 	<p>【読】他の本を読んで、説明の工夫を見付けている。 (ノート)</p>

7 本時の指導

(1) 本時の目標

中心となる語や文に着目しながら、「中」の各段落の内容を読み取り、説明の工夫をまとめることができる。

(2) 評価規準

段落の中心となる文を捉えることができる。

(努力を要する児童への支援:「くふう」というキーワードに着目させ、中心文に気付かせる。)

(3) 思いをもって伝え合う言語活動について

①目的と読みの視点を明らかにした活動について【言語活動1】

目的・・・「おいしく食べるくふう」を見付けるために読む。

読みの視点・・・「くふう」という言葉をキーワードにして読み取らせる。

②考えを形成し、交流し合う活動について 【言語活動2】

「おいしく食べるくふう」を見付け、中心文である理由について全体で交流する。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	○支援の手立て	★評価
み と お す 5 分	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 大豆をおいしく食べるためのくふうを見 つけよう。 せつめいのくふうについて考えよう。 </div> 3 学習の流れの見通しをもつ。	○前時にみんなで考えた「問い」を確認する。	○「中」の部分を詳しく読み取ることを確認する。 ○単元を通して、説明の仕方の工夫についても考えることを確認する。
ふ か め る 30 分	4 学習場面を音読する。 5 「中」の部分を読み取る。 (1) 第3段落を読み取る。 工夫…大豆をその形のままでいった り、にたりして、やわらかく、 おいしくする工夫 (2) 工夫を見つけた根拠について交流する。	○どんな工夫があるかを意識しながら音読させる。(指名読み)	○見付け方がわかるように、全体で読み取る。 【言語活動1】 ・大豆をおいしく食べるための工夫に線を引かせる。 ○中心となる文に着目させるため、どうして中心文なのかを確認する。 【言語活動2】 ・中心文には大事なことがまとめて書いてあることを押さえる。 ・中心文でないところには、具体例が書いてあ

	<p>(3) 学習したことをもとに第4段落から第7段落までを自分で読み取る。</p> <p>(4) 読み取ったことをみんなで確かめる。</p> <p>第4段落</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫…粉にひいて食べる工夫 <p>第5段落</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫…大豆に含まれる大切な栄養だけを取りだして、ちがう食品にする工夫 <p>第6段落</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫…目に見えない小さな生物の力を借りて、ちがう食品にする工夫 <p>第7段落</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫…取り入れる時期や育て方の工夫 <p>6 説明の仕方のくふうをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心文は段落の始めにある。 	<p>ることを確かめる。</p> <p>○第3段落をもとに、自分で読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豆をおいしく食べるための工夫に線を引かせる。 <p>★中心文を考えながら、「おいしく食べるためのくふう」を見付けている。 (教科書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心文を見付けることができない児童には、「くふう」というキーワードを探すように声をかける。 <p>○どの段落も最初の文が中心文であることに気付かせる。</p>
<p>ふりかえり 10分</p>	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>8 次時の学習を予告する。</p>	<p>○本時の学習でわかったこと、これからの学習に生かしたいことを振り返る。</p> <p>○次時も説明の工夫を考えることを確認する。</p>

(5) 板書計画

せつめいのくふうを見つけよう
<p>①か 大豆をおいしく食べるためのくふうを見つけよう。 せつめいのくふうを見つけよう。</p>
<p>「問い」大豆をおいしく食べるために、どのようなくふうをしてきたのでしょうか。</p>
「答え」
第三段落
第四段落
第五段落
第六段落
第七段落
せつめいのくふう
<ul style="list-style-type: none">・中心となる言葉「くふう」・中心文は段落の初めにある。